

誠に恐縮ですが、本レターをもって暑中お見舞いと代えさせていただきます。



### 「生きる」

小井戸友司 (こいど ともじ)  
昭和20年富岡市産まれ  
同市にて金属加工工場を営む傍ら  
市民写真家として活躍  
平成18年4月6日～11日  
念願の写真展を開催、  
テーマ「生きる」  
4月13日 白血病により永眠  
読売写真クラブ最優秀賞 他受賞

### ご挨拶

こんにちはアサカワです！皆さんお変わりございませんか？  
私達は相変わらず元気に営業しております。  
皆さんも体調を崩されませんよう、くれぐれもご自愛下さい。

6ヶ月前に産まれた長男がハイハイを始めました。子供の成長の早さには本当に驚かされますね。大人になると何だかアツという間に時間ばかりが過ぎてしまうように感じるがありますが、子供たちの成長に負けないように、頑張ろうと思います。



スタッフ近影 (新人：片山です↑)

事務所には新しいスタッフも加わり、営業日を増やしたり契約の早期化に取り組んだりホームページを作成したりと新しい取り組みも積極的にしています。  
これから是非応援してください。

代表取締役 浅川 高広

# あっぱれ

あんしん生活応援団

第七号

発行：(有)アサカワ  
総合保険事務所  
富岡市七日市795  
0274-62-2550  
編集：浅川 高広



### やっとホームページを開設しました。

事務所の紹介や私のブログ(日記風HP)へのリンクや、もあります。ブログでは普段着のコメントや、ダイエット記録などを日々更新しています。



http://www.a-shop.co.jp  
もしくは  
「アサカワ総合保険」で検索

手作りなので、ちょっとおかしな所もあるかもしれませんが、やっと形になりました。常に新しい情報をお届けさせていただきますので、ぜひご覧下さい。

海外旅行保険などがインターネットで契約できるほか、保険会社の提供する各種サービスが手軽に受けられるようになっています。(例えば、ご自分の保険内容や、事故の進捗などもわかります。)

上記、小井戸さんの遺作「生きる」の写真集がご覧いただけます。

### 1億.6000万円

2001年4月～2006年3月末日までの保険金支払い実績が  
事故件数 800 件！  
支払い総額 160,777,134円！  
支払いました。  
皆様にあんしんをお届けした証です。

一方で、昨今新聞等で保険金の不払い問題が取りざたされておりますが、この事は皆様の信頼を損ねるものであり、多大なるご迷惑をおかけいたしました。関係者としてお詫び申し上げます。

弊社では該当する支払い漏れはございませんでした。

### 土曜日営業 お気軽にお立ち寄り下さい

これまで弊社は土日祝休みで、後はお客様次第というお気軽経営だったのですが、そうすると、どうしても土曜日や日曜日に来店してくださるお客様にきちんとした対応ができません。「たまたま家にいたから対応できた」という感じで、ジーパンにTシャツ、時にはアロハで対応なんて事もありました。  
『これは何とかしなくては！・・・』

ということで、スタッフの人数もそろってきたので、土曜日を正式に営業日といたします。

これはお客様サービスの一環としての取り組みですから、多少の負担増は度外視し、代わりのメリットを最大限伸ばしていきたいと考えています。

#### 【営業時間】

9:00～18:00 (平日)  
9:00～17:00 (土曜日)

#### 【休業日】

日曜 祝日  
年末年始などの臨時休業

## 歴史考察 富岡甘楽の謎

神津、荒船、貴前、富岡周辺にお住まいの方なら聞き覚えのある名前だと思いますが、私は高校生のころからこれらのキーワードは不思議だなあと感じていました。なぜあんな山の中に 神の港を意味する「神津」だとか「船」なんて地名があるのか？「神戸」や「神宮」「神保」など「神」の苗字の人がやたら多いのは何故なのか？なぜ貴前神社は1,500年以上も前に富岡に建てられたのか？皆さんは不思議だと思いませんか？

調べてみると面白い事がわかりました。荒船山は神道集「上野国一宮事」の項に書かれた神話に笹岡山という名で初めて登場します。神話では南天竺（インド）の美しい女神が国を追われて天甲船（空を飛ぶ船）で降臨した場所が笹岡山であるとされており、その神は現在貴前神社に祀られていると伝えられています（貴前神社では、姫大神という、由来のわからない綾女庄《一ノ宮の古称》に古くからある養蚕の神としています）。貴前神社は、物部姓磯部氏によって531年に建立されていますから、古墳時代後期この地を治めていたのが物部一族であったことは明らかでしょう。ポイントは、姫大神は貴前神社ができる前にすでにこの地域に根ざしていたというところなんです。

さて、先ほどの神話ですが、こう読み取ることはいけませんか？

『南天竺から追われて来た女神』

⇒南天竺の勢力⇒仏教勢力⇒蘇我氏 に追われてきた 物部氏⇒神道！

私論ですが

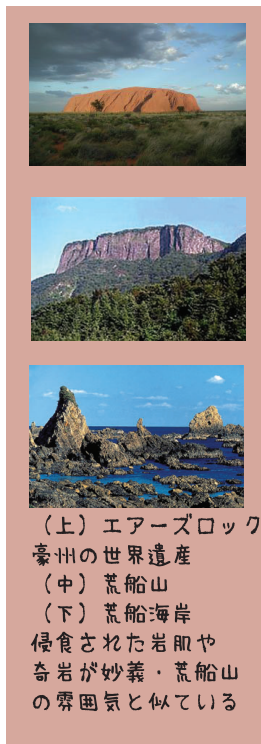
『かつてこの地にクニを作った人々は、機織の技術を持った渡来系の人々であったためここは綾女庄（機織りする女性の邑）と呼ばれていた。古墳時代中後期に磯部氏がこの地を支配するようになりこの地の中心となる社を建立した。その後、蘇我氏（仏教）との対立に敗れ滅ぼされた物部氏（神道）の一部が磯部氏を頼ってこの地に逃げ落ちる際、その事は公にできなかった為に人目を避けて、佐久から笹岡山を越えて甘楽へとたどり着いた。この人々は、早くに中央を離れた磯部氏よりも位が高かった為この土地の神と結びついて以後祀られることとなった。』と考えています。

物部氏は古代の大豪族であり大和朝廷以前から勢力を持っていた渡来系大連の一族で、製鉄技術に優れていたほか、神道の守護者としてその地位を築いていたといわれています。水軍を率いて百濟へ行ったという記録がありますから、船や海には縁のある一族といえます。

そして、物部氏の傘下だった熊野には荒船海岸という地名があります。

【神】の名のつく土地や苗字が多いのも、荒船や神津も、こうした理由を考えれば納得がいきます。

どうでしょう？なかなか夢のある素敵な祖先の歴史が見えてきませんか？吉井町の多胡碑、羊太夫の伝説にも空を飛ぶ「船石」が出てきます。（羊太夫の一族は帰化人と伝えられている）まだまだこの地域には面白い謎がありそうです。



(上) エアーズロック  
豪州の世界遺産  
(中) 荒船山  
(下) 荒船海岸  
侵食された岩肌や  
奇岩が妙義・荒船山  
の雰囲気と似ている

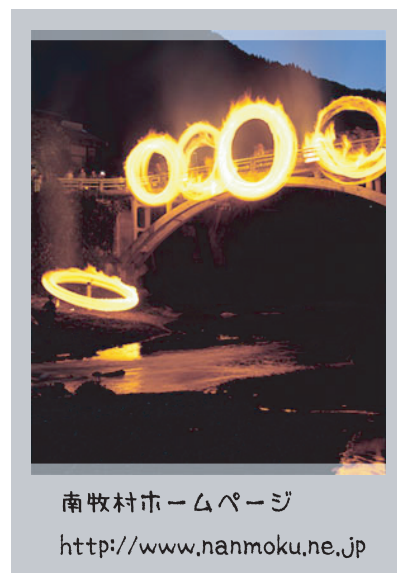
## 夏のみどころ

南牧村の『火とぼし』という火祭りをご存知でしょうか？縛った藁に火をつけて橋の上から吊るし、大きく円を描くように回す火祭りで、南牧村の風物詩です。

戦国時代から続くと伝えられるこの『火とぼし』実は県内最大級だそうです。その幻想的な姿は一見の価値あります。

嬉しい事に、希望者は誰でも参加できます。参加される方は、火の粉や灰が飛びますから、着替えと帽子を持ってお出かけ下さい。

場所：南牧村大日向 安養寺  
日時：8月14日15日 時間：夕方から  
詳しくは南牧村役場まで TEL：0274-87-2011

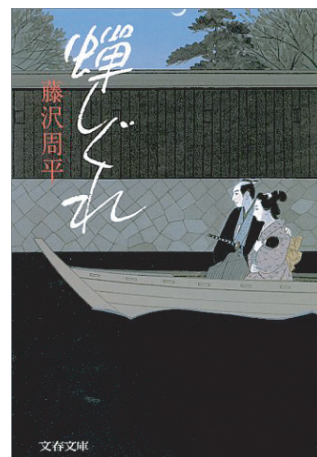


南牧村ホームページ  
<http://www.nanmoku.ne.jp>

## おススメの一冊！

蝉しぐれ

藤沢周平



主人公・牧文四郎が人生の無常なる逆境に立ち向かい成長する過程を描いたこの作品には、「恋」があり、「友情」があり、「人との出会い」があり、「父から子へと継承される人としての生き方」という普遍的なテーマが見事に織り込まれています。

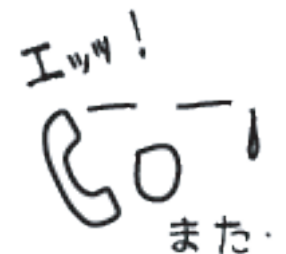
奇烈な運命に翻弄されつつ成長してゆく少年藩士の姿を、精気溢れる文章で描きだす爽やかな長篇傑作です。行間から読み取る藤沢周平の感性、細やかな描写、幼馴染おふくの心情など、原作でなければ味わえない感動があり、ドラマや映画を見た方にも、そうでない方にもおススメです。

## 事故多発

早期契約をお願いいたします。

『何なんだー！』

この4月、これまで経験のしたことのないパニックが弊社を襲いました。3日に2件、6日は1件、7日も1件、8日に又2件・・・この調子で事故は続発し、とうとう4月の事故件数は28件に上りました。



通常月の平均数は12~15件 あまりの事故の多さに思わず口をついてこの言葉が出たのです。

4月は新入学入社等の時期でもあるため3月に次いで自動車保険契約の多い月です。弊社では継続契約は10日から1日前位行うことが多かったのですが、相次ぐ事故で予定通りにお客様のところへ伺えません。お客様に予定をずらしてもらったり、事務員が集金に伺ったり、その結果満期日に契約なんて事もありました。

この反省から、次のような取り組みを始めました。



◎継続契約を1ヶ月前にはさせていたが、もしもの時にも余裕のある対応ができるようにさせていただけるよう、6月から早期継続に取り組んでいます。



◎早めの契約だと、保険料を先にお預かりすることとなり、お客様にご迷惑がかかります。そこで、たとえ2ヶ月前に継続しても保険始期月に引き落としとなる口座振替契約をお願いしています。口座振替にすると、電話だけでも継続手続きの完了できますので、お忙しい方にはピッタリです。



事故は5月に入ると通常の件数に戻り、現在は落ち着いています。

早期継続、口座振替契約にご理解ご協力下さい。